

# 本会の活動から

## 「Tokyo健康ウォーク2024」に協力

ウォーキングコースを歩きながら、大腸がんについて楽しく学ぶ、東京都大腸がん検診普及啓発事業「Tokyo健康ウォーク2024」（主催 東京都、NPO法人レイブサークル運営委員会）が2024年11月24日に荒川区で開催された。都立汐入公園ふれあい広場をスタート・ゴール会場として、約5キロまたは約8キロを歩く参加型イ



▲Tokyo健康ウォーク2024

## 東海大学生の現場実習に協力

本会では毎年、東海大学医学部看護学科が行う公衆衛生看護学に関する統合実習に協力している。今年度も9月10日に4人の学生を受け入れ、健康診断や健康づくり支援活動および保健師活動に関する講義などを行った。

実習に参加した学生からは、「話しやすい雰囲気づくりが信頼関係の構築に役立つと感じた」「健康経営は生産性の向上のために必要であると理解が深まった」「相談者と一緒に考える姿勢を忘れないようにしたい」などの感想が聞かれた。

## 産業医科大学生の現場実習に協力

本会では毎年、産業医科大学医学部の5年生を対象にした産業医学現場実習に協力している。この実習は、現場における産業医の役割と活動を学

生が実際に体験することで、産業医志向をより高めることを目的としており、全国の事業所で行われている。

今年度は12月2～6日の5日間、医学生2人を受け入れた。健康診断や健康づくり支援活動および産業保健の現場における産業医や保健師の役割と活動に関する講義などを行った。

## 予防医学事業中央会

### 令和6年度第2回全国運営会議に参加

令和6年度第2回全国運営会議（主催 予防医学事業中央会）が11月21日、長崎県長崎市で開催され、全国32支部より約80人が参加した。この会議は、予防医学事業中央会の都府県支部の役員、事務局長を対象に年2回開催され、予防医学事業に関する今後の事業展開や取り組みについて討議される。本会からは、理事長の久布白兼行、専務理事の前田秀喜、理事の矢島晴美、広報室部長の栗原郁、健診事業部長の廣瀬篤史が参加した。また、同日行われた予防医学事業中央会奨励賞の授与式では26支部33人が表彰され、本会からはデータ管理部と検診検査部の職員2人が受賞した。

## 予防医学事業中央会

### 第69回予防医学事業推進全国大会に参加

第69回予防医学事業推進全国大会（主催 予防医学事業中央会、長崎県健康事業団）が11月22日、「生涯にわたる健やかな生活を目指して」をテーマに長崎県長崎市で開催され、中央会支部関係者をはじめ県内外から約300人が参加した。本会からは、

専務理事の前田秀喜、理事の矢島晴美、広報室部長の栗原郁、データ管理部と検診検査部の職員2人が参加した。

当日は、「赤ちゃんからお年寄りまで」生涯を通じた予防接種」をテーマに森内浩幸医師（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科小児科学教授）による記念講演が行われ、記念式典では、予防医学事業の発展・向上に顕著な功績のあった4人の表彰が行われた。本会からは理事長の久布白兼行に全国大会感謝状（国井記念賞）が贈られた。

## 予防医学事業中央会 関東甲信越地区会議に参加

関東甲信越地区会議（主催 予防医学事業中央会、群馬県健康づくり財団）が11月29日、群馬県高崎市で開催され、関東甲信越地区の支部から約60人が参加した。

本会からは専務理事の前田秀喜、健診事業部の職員1人、検診検査部の職員1人、母子保健検査部の職員1人が参加した。

## 第30回健康づくり懇話会総会を開催

本会とお取引先の皆様健康づくりに役立つ情報交換と相互交流を目的に運営している健康づく



▲第30回健康づくり懇話会総会

## 学術集会への参加等

●第38回関東臨床細胞学会学術集会が9月14日、「AI時代の細胞診」をテーマに千葉県千葉市で開催され、理事長の久布白兼行が参加した。

●日本超音波医学会 第36回関東甲信越地方学術集会が10月5～6日、「超音波診断そして治療」をテーマに東京都江東区で開催され、検診検査部長の神宮字広明、同部の職員10人が参加した。

●第57回日本小児内分泌学会学術集会が10月10～12日、「探索と深化」をテーマに神奈川県横浜市で開催された。

このうち、母子保健検査部小児スクリーニング科の渡辺和宏が「一般口演11 周産期・新生児」にて、「東京都におけるLCI-MMS/MSS法を用いた副腎過形成症スクリーニング二次検査法の再採血判定基準の検証」と題して発表した。

●第33回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会、第60回東北臨床細胞学会学術集会が10月19～20日、「科学的根拠に基づいた最適な精度管理を目指して」をテーマに青森県弘前市で開催され、

理事長の久布白兼行、健診事業部長の廣瀬篤史の他、健診事業部の職員2人、母子保健検査部の職員2人が参加した。

このうち、母子保健検査部母子保健検査一科の水上智子が同学術集会のシンポジウム3「HPV陽性検体の細胞診」において、「当施設におけるHPV陽性・細胞診ASCIUS判定例について」をテーマに講演した。

●第32回日本消化器関連学会週間（JDDW 2024）が10月31～11月2日に兵庫県神戸市で開催され、消化器診断部長の川崎成郎、放射線部の職員2人が参加した。

●第58回日本側弯症学会学術集会が11月1～2日に「匠の技と革新技術」をテーマに福岡県福岡市で開催され、健診事業部長の廣瀬篤史、同部の職員3人、検診検査部長の神宮字広明、同部の職員2人が参加した。

このうち、同部生理機能検査二科の杉山仁美が「一般演題2 学校検診」にて、「脊柱側弯症検診における自動縞数支援ソフトの精度の検討」と題して発表した。

●第63回日本臨床細胞学会秋期大会が11月16～17日に「細胞を見る、診る、究める」細胞診の現状と展望」をテーマに千葉県千葉市で開催され、母子保健検査部の職員3人が参加した。

●第28回日本小児心電学会学術集会が11月29～30日に「小児心電学のNEXT STAGE」をテーマに三重県津市で開催され、理事の黒田聡史、データ管理部の上村篤弘の他、健診事業部の職員2人、検診検査部の職員1人が参加した。